

藪睨

眇

推問之名謁申言上總五郎兵衛尉也爲奉度幕下數日經廻鎌倉申云云

〔書言字考節用集五〕邪睨ウツラ文選註魚目通視

〔倭訓栞中編二十七〕やぶにらみ通睛をいふ藪睨の義なりやぶは無用の處を云ふなるべし斜

眼も同じ

〔新撰字鏡目〕眇彌繞反上莫也遠也見也須加目又乎知加太目

〔倭名類聚抄三〕眇病周易云眇能視蹇能行師說眇讀須加

〔箋注倭名類聚抄二〕原書履六三云眇能視跛能履歸妹初九云跛能履九二云眇能視此所引恐誤

按說文眇一目小也段玉裁曰易釋文引作小目也爲是釋名目匡陷急曰眇眇小也是眇字本訓病

源候論偏不見物謂之眇目是轉注也又按新撰字鏡蹇字眇字並同訓谷川氏曰當是須加比目須

加比與生須加不之須加不同

〔伊呂波字類抄須人體〕眇スカムスカメ瞶目瞶角膝已上同

〔增補下學集上二〕眇スカ

〔書言字考節用集五〕眇スガメ眼又云瞶眼經音一目少也

〔倭訓栞前編十二〕すがめ倭名抄に眇をよみ新撰字鏡に瞶また眇をもよめりすが目なるべ

し平忠盛の眇なりしを醜甕によせてはやせし事平家物語に見えたり俗にためつすがめつと

いふは矯つ直めつの義なるべしまた物をためるには一目眇にする故にや天目ヒビ一箇命の名も

木匠の神なれば此義也といへり

〔和漢三才圖會十〕眇音眇和名須加女俗云加牟太

〔眇說文云一目小神仙傳曹公欲害左慈慈一目眇葛布單衣至市視之一市十萬人皆眇一目單衣無

非慈者